

研究タイトル：労働者のヘルスリテラシーと作業参加の関係

福島県立医科大学保健科学部作業療法学科 川又寛徳、五百川和明、三橋佑平、田中善信

## 1. はじめに

少子高齢化に伴う労働者人口の減少に対応し、就業機会の拡大、意欲や能力を発揮できる環境づくりを目指す「働きかた改革」が進められ、その中心課題であるワーク・ライフ・バランス（以下、WLB）の実現は社会にとって重要である。WLBは、仕事と仕事以外の生活の充実の好循環が、多様性に富んだ活力ある社会を創出する基盤として重要であるとされている<sup>1)</sup>。しかし、勤労世代の労働者に対する、仕事以外の、趣味や社会貢献など余暇の過ごし方については十分な教育の機会が設けられていないのが現状である<sup>2)</sup>。

## 2. 目的

本研究の目的は、労働者における作業参加にヘルスリテラシー(以下、HL)が与える影響の大きさを明らかにすることである。自分にとって大事な作業を選択し、遂行するためにHLが影響していることが明らかになることで、対象となる労働者のHLに応じた余暇など作業を中心に生活を再構築する健康教育プログラムの開発等が期待できる。

## 3. 方法

### 1) 研究デザイン

本研究は横断研究デザイン、無記名自記式質問紙調査法で行った。研究協力施設にて後述のアンケートを配布し、作業参加とHLについて無記名自記式質問紙調査法を用いて調査した。

### 2) 研究対象者

A県内3ヵ所の介護老人保健施設に勤務する職員を対象とした。

### 3) アンケート項目

#### (1) フェイスシート

フェイスシートでは、年齢、性別、居住形態、健康状態、治療中の病気、教育歴、経済状況、就労状況を尋ねた。

#### (2) 自記式作業遂行指標（以下、SOPI）<sup>3)</sup>

SOPIは、信頼性・妥当性が検証されている作業参加を測定する9項目による自己記入式、5件法の質問紙であり、得点が高いほど作業参加が良好であることを示す。※SOPI素点加算法：素点加算法におけるSOPI得点（総合点）は9～45点、領域別得点は各3～15点の範囲をとり、得点が高いほど作業参加の状況が良好であることを意味する。

#### (3) The 14-item health literacy scale for Japanese adults（以下HLS-14）<sup>4)</sup>

HLS-14は、機能的HL（5項目）、伝達のHL（5項目）、批判的HL（4項目）の各HLについて14項目の質問で構成され、5件法で回答する。高得点であるほどHLが高いとされ、日本人の成人を対象に信頼性・妥当性が示されている。

## 5) 分析方法

(1) 対象者全体の特徴を明らかにするために記述統計量を算出する。

(2) 従属変数をSOPIの総得点、独立変数をHLS-14の各下位尺度得点、共変数を年齢、性別等とし

て、作業参加に寄与する因子を重回帰分析（変数増減法）により検討した。統計的有意水準は5%（両側検定）とし、統計解析はIBM SPSS Statistics26 を用いて行った。

#### 4. 結果

##### 1) アンケート回収率、対象者の基本情報

アンケートはA県内3ヵ所の介護老人保健施設で246通配布し、206通回収され、回収率は83%であった。そのうち、欠損値がない194通を分析に用いた。

対象者194名の平均年齢（標準偏差）は、42.9（11.61）歳、最年少は20歳、最高齢は79歳であった。男性（女性）は49（145）名であった。職種は、介護職が100名で最も多く、看護職28名、リハビリテーション職18名、介護支援相談員・相談職14名、事務職10名、医師4名、管理栄養士・栄養士4名、その他16名であった。教育歴は、短大・高専卒が最も多く88名であり、中学校1名、高校卒70名、大学・大学院卒33名、その他2名であった。

##### 2) 重回帰分析

変数増減法による重回帰分析の結果、機能的HL、性別が作業参加に寄与する因子であった（表1）。

表1 重回帰分析の結果

	偏回帰係数	標準偏回帰係数	有意確率（p）
定数	23.73	3.35	0.00
機能的HL	0.34	0.13	0.01
性別	-2.30	1.15	0.05

R<sup>2</sup>=0.06, ANOVA p<0.05

ANOVAの結果は有意であったが、R<sup>2</sup>は0.06であったため、適合度は低かった。

#### 5. 考察

介護老人保健施設で働く労働の作業参加に影響する要因として、機能的HL、性別が抽出された。つまり、健康に関するHLのうち、とくに健康情報を読み書きする能力や、女性であることが低い作業参加の要因である可能性がある。しかし、決定係数が低いため、作業参加を説明する変数として別の変数の検討が必要であり、今後の課題である。

#### 文献

- 1) 男女共同参画会議 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会。「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向 報告～ 多様性を尊重し仕事と生活が好循環を生む社会に向けて～. [http://www.gender.go.jp/kaigi/danjo\\_kaigi/siryu/pdf/ka27-9.pdf](http://www.gender.go.jp/kaigi/danjo_kaigi/siryu/pdf/ka27-9.pdf). (Accessed on 20 August, 2020)
- 2) 河津拓, 山田孝. 定年制による男性退職者が作業を再構築していくプロセス. 作業行動研究. 2012; 16(2):87-96.
- 3) 今井忠則, 齋藤さわ子. 個人にとって価値ある活動の参加状況の測定－自記式作業遂行指標（SOPI: Self-completed Occupational Performance Index）の開発－. 作業療法. 2010; 29(3):317-325.
- 4) Suka M.et al. The 14-item health literacy scale for Japanese adults (HLS-14). Environ Health Prev Med. 2013; 18(5):407-415.